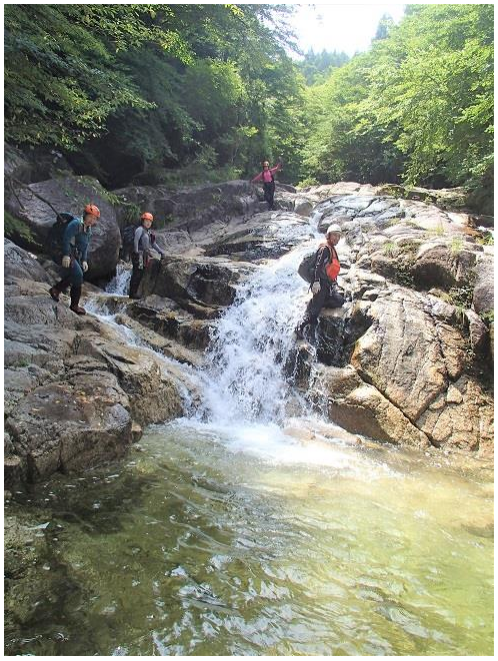
鈴鹿・赤坂谷遡行～ツメカリ谷・神崎川下降　沢登り

2020年8月9日

メンバー：Ｔ野・Ｎ野・Ｔ山・Ｔ中ｍ・Ａ上



　昨晩も多少寝苦しかったが、近くに川があるからか、一昨日と比べれば涼しくまあまあ快眠できた。

　さて、今回のメインディッシュである。「関西の赤木沢！！」といわれ超美渓だそうで、ヤマップの沢の記録を見てもかなりの頻度で記録が出てくるメジャーな沢である。何回も訪れている山域ならもうちょっとマニアックな沢を攻めたいところだが、今回、メンバー全員「初鈴鹿」なので冒険はせず、ハズレのない沢を選んだ。昨晩泊まった道の駅から車で5分も走れば神崎川沿いの林道入口。ちょうど1台分のスペースが空いていたのでここにデポをして6:45に出発。

　朝から暑い。林道はしっかり舗装されていて車で入ればホントに楽なのだが、いつからか一般車は通行禁止になったようだ。きっとだれかが何かやってはいけないことをやらかしたのだろう。対岸に赤坂谷を確認して少し行ったところに神崎川に降りる道があり、そこから入渓したがしっかり1時間歩かされた。

　神崎川の石がゴロゴロした河原を下降していくと、間もなく赤坂谷出合。赤坂谷に入ると下部は巨岩とエメラルドグリーンの淵が連続し、すぐに胸まで浸かるが全く寒くない！！というか水の冷たさが気持ちがいい！！これこそ夏の沢だ！！

■写真上　難しそうだが快適に突破できる連瀑。
■写真中　水の中が気持ちいい！！全然寒くない。
■写真下　だんだん赤木沢っぽくなってきた。

　見栄えのする滝もあるが通過は簡単で美しい渓を1時間程遡行すると10mクラスの立派な連瀑が現れる。遠目には「これどうやって突破するの？」っていう感じだが、最初の滝は近づいてみれば楽勝！！念のためロープを張って左壁から登ったが全く問題なく突破。ふたつ目の滝は側壁に囲まれてさらに迫力が増すが、これも左壁から簡単に登れる。ただトラバースの一歩が少し嫌らしいのでここもロープ使用。「見た目と比べて簡単！！」というのはつまり「楽しくて快適！！」ということだ。

　それにしても長時間水に浸かっていても全然寒くない。最初

はメンバー皆、ウェットを着てその上にライフジャケットという完全武装で挑んでいたが、いつしか「暑い！！」とお水系の沢では実に贅沢な言葉をはき、ウェットやライフジャケットを脱ぎ捨て普通の沢装備で遡行していた。

渓は相変わらず巨岩・淵・小滝の連続で、昨日遡行した元越谷と雰囲気は似ているが、。全てにおいてワンランクスケールが大きい。ただ、ここまでは「何が関西の赤木沢なの？」という感じでキレイには違いないが赤木沢とは雰囲気が全然違う渓相だ。

渓の雰囲気が変わるのは、617mで仙香谷を左に分けたあたりからであった。徐々にナメやナメ滝が連続するようになり、「オォー、笛吹川の東沢っぽい雰囲気だネ！！」と思っていると、徐々に周りの雰囲気が明るくなり、「ウン、これは確かに赤木沢っぽい！！」という雰囲気に変化する。」白い花崗岩の沢床にエメラルドグリーンの淵、その間をサラサラとナメ滝がつなぎ、その明るい渓相は一気に標高が1000m位上がったような感じだ。
「美しく、難しくはないけど、面白い！！」日本中探してもなかなかこういう渓は見つからないだろう西日本で大人気なのも納得である。

■写真上　関西の赤木沢！！
■写真中　ツメカリ谷は河童天国！！
■写真下　淵に飛び込む！！

さて、赤木沢のような明るいナメ地帯が一区切りつく標高720m付近（左岸にテープあり）で赤坂谷を離れ、尾根を乗越しツメカリ谷に下降する。ここのルーファイが意外に難しいという記録があり、沢で出会った地元のパーティーも「4回来てるが何時も違うルートになる。」と初鈴鹿の我々を脅かす。なんでも、間違えて一本北側の沢に入ってしまうとツメカリ谷ではなく神崎川に直接降りてしまうらしい。まあ、それはそれで近道ということでは有意義なのだが、それでは快適なツメカリ谷の下降ができなくて面白くないということだ。

「慎重に、慎重に」と自分に言い聞かせて尾根越えに臨む。枝沢沿いにあるかすかな踏み跡を標高差50ｍも上がると尾根に出る。ここから南向きの沢に入れば良いのだが（テープもあった）何せ脅されているのでより慎重にとしばらく踏み跡のある尾根を東に進んでみる。記録によると作業場跡のようなところに出るのが正解なようだ。しかし、そのような場所はなく、ルートも外れてきたので再び引き返し、最初に尾根に上がったテープの場所から方向に注意しながら下降することにした。結果は正解で藪もなく快適に沢に下降して歩きやすい沢沿いの森をスタスタ進めば問題なくツメカリ谷の5m滝の下に導いてくれた。

まあ、結果的には普通にル―ファイすれば問題ないルートであった。ツメカリ谷はしばらくゴーロで荒れた渓相を下降するが簾状の6m滝が現れると、そこからはもう河童天国！！小滝は深い淵を持っていてそこに向かってジャンプ！！といえば格好良いが実際は恐々ずり落ちるように落下、というのが正直なところだ。そんな滝が3つくらいあり、楽しく泳ぎながら下降すると、さらにスケールの大きな神崎川に合流する。水の色と透明度が半端ない！！浅く見えても水深は結構深く、プカプカ浮きながら川を流れていくのは最高！！Ｔさんが珍しく「楽しい！！」を連発している。

流れたり歩いたりしながら下降していくと結構スケールの大きなゴルジュもあり、その辺りの雰囲気は上の廊下を彷彿させる。一カ所、急流を渡る場所でＭさんが流され、水の力で動けず自己脱出ができなくなり肝を冷やしたが、何とかＮ野と二人がかりで救助、事なきを得たが、急流の力の凄さと恐さを改めて思い知った。

渓のスケールが大きく、飛び込んでも大丈夫かどうかが自信持てず、流れの強い場所や落差のある場所は水に入らず、一カ所懸垂下降も行い下降していくと堰堤があり、右岸の巻道を辿れば今朝降り立った河原に戻ってくることができた。最後にあと1時間弱、車道を歩いてフィニッシュ！！

■写真上　神崎川をドンブラコ！！
■写真中　上ノ廊下を彷彿させるゴルジュ。
■写真下　このくらいになるとちょっと怖くて飛び込めない。

赤坂谷～ツメカリ谷周遊は期待以上の素晴らしいルートで、水を怖がらない初級者に沢の楽しさを教えるには最適なルートです。もちろん、初級者でない人にも超お奨め、東京からは遠いですが行く価値は大です。ただ、我々も、多少時間のロスはあったものの10時間行動となり、かなりの充実感がありましたのでそれなりの体力は必要な沢だと思います。晴れた暑い日にトライすれば忘れられない1日になると思いますよ！！ちなみに懸案のヒルですが、ラッキーなことに今日もお盆休みを取っていました。

■コースタイム
神崎川合流点国道（6:45）～（7:50）神崎川入渓～（8:00）赤坂谷入渓～（9:05）10mクラスの連瀑～（11:30）720m枝沢～（12:30）ツメカリ谷～（14:00）神崎川合流～（16:35）神崎川合流点国道

■おまけ

予定のルートをすべてこなして「明日どうする？」という話になり、「彦根城！！」「そのまま帰る！！」など意見が出たが、まず今日、どこで泊まるか？を考えた時に「とにかく涼しいとこで寝たい！！」というのはメンバー共通の願いであった。「どこか標高の高い場所はないか？」となった時に浮かんだのが「そうだ、伊吹山に行こう！！」という案だ。伊吹山は車で1200m位まで登れ、ラッキーなことに今晩は雨の予報はない。1200mまで登れば寝苦しいということはないだろう。ということでメンバー全員の賛同を得る。ということで車は三重方面ではなく滋賀方面に進路を取り、腹が減っていたので適当なレストランを探して食事（ここのハンバーグ、私的にはとても美味しかった）、その後、甲良市にある香良の湯（これが何と¥250！！露天もありシャンプー完備）で汗を流し一路伊吹山へ。伊吹山ドライブウェイは往復￥3140とちょっとお高いが5人で割れば大したことない。我々の考えは見事に当たって、標高約1200mのドライブウェイ終点の駐車場は気温22℃、テント不要で星や夜景を見ながら宴会し、涼しく快適、おかげで安眠をむさぼることができた。

■写真上　伊吹山から琵琶湖を望む。
■写真下　伊吹山は草原の山でした。

8/10

早朝、目が覚めるが残念ながら雲があってご来光は見れなかった。しかし伊吹山はなんといっても日本100名山。しかもここから30～40分で往復できるらしい。であれば早朝の散歩気分で山頂をサクッとゲット！！「これって山行日数に入るのかなぁー？」

山頂付近は草原でサラシナショウマやシモツケソウなどの花も咲いていて、琵琶湖や滋賀、岐阜の山々が望め、新鮮な景色を充分満喫！！涼しいうちにサクッと戻り、早朝から車を飛ばし帰路につき、昼頃には帰京しました。

伊吹山は快適な睡眠がとれ、未踏の100名山もゲットでき、「おまけ」にしてはなかなかのクオリティーでした。